

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年1月31日

協議会名:宮城県地域路線バス等対策連絡協議会

評価対象事業名:地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
(株)ミヤコーバス	No.1 白石遠刈田線 (白石蔵王駅～アクティブリゾート宮城蔵王)	高校との打ち合わせの結果、新入生に時刻表を配布した。	A 計画通り適切に実施された。	B 運行回数は計画通り、輸送人員、収入ともに前年度比で減少 ・輸送人員:前年度比88.9% ・運送収入:前年度比95.3%	・今後も高校の登下校に合わせた時刻調整及び、通学生に対してバス利用の周知を図る。 ・インバウンド対策で白石蔵王駅との接続を検討 ・遠刈田温泉などの観光資源を活用した企画乗車券を検討する。
(株)ミヤコーバス	No.2 川崎線 (大河原駅前～川崎)	沿線高校との打ち合わせの結果、新入生に時刻表を配布した。 県南中核病院へのアクセス向上を図るため、病院経由の増回を行った。	A 計画通り適切に実施された。	B 運行回数は計画通り、輸送人員、収入ともに前年度比で減少 ・輸送人員:前年度比91.5% ・運送収入:前年度比90.2%	・今後も高校の登下校に合わせた時刻調整及び、通学生に対してバス利用の周知を図る。 ・みやぎ県南中核病院への乗り入れ便を増回したが、病院利用者が少なく、利用者増に向けた改善が必要。
(株)ミヤコーバス	No.3 川崎線 (大河原駅前～村田営業所)	沿線高校との打ち合わせの結果、新入生に時刻表を配布した。 県南中核病院へのアクセス向上を図るため、病院経由の増回を行った。	A 計画通り適切に実施された。	B 運行回数は計画通り、輸送人員、収入ともに前年度比で減少 ・輸送人員:前年度比88.1% ・運送収入:前年度比90.0%	・今後も高校の登下校に合わせた時刻調整及び、通学生に対してバス利用の周知を図る。 ・みやぎ県南中核病院への乗り入れ便を増回したが、病院利用者が少なく、利用者増に向けた改善が必要。
(株)ミヤコーバス	No.4 利府線 (塩釜営業所～しらかし台)	沿線高校との打ち合わせの結果、新入生に時刻表を配布した。 JRのダイヤ改正に合わせ時刻改正を実施。 沿線企業へ訪問し、バス利用の周知を行った。	A 計画通り適切に実施された。	B 運行回数は計画通り、輸送人員、収入ともに前年度比で減少 ・輸送人員:前年度比92.5% ・運送収入:前年度比94.4%	・今後も高校の登下校に合わせた時刻調整及び、通学生に対してバス利用の周知を図る。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
(株)ミヤコーバス	No.5 吉岡線 (泉中央駅～道下)	沿線高校との打ち合わせの結果、新入生に時刻表を配布した。 富谷市・大和町の観光資源を活用した企画乗車券について関係各所と意見交換を行った結果断念することとなった。	A 計画通り適切に実施された。	B 運行回数は計画通り、利用実態に合わせ、年度途中で減便を実施した結果、輸送人員、収入とも前年度比で微減となった。 ・輸送人員:前年度比98.4% ・運送収入:前年度比99.9%	・今後も高校の登下校に合わせた時刻調整及び、通学生に対してバス利用の周知を図る。
(株)ミヤコーバス	No.6 色麻線 (古川駅前～色麻町役場)	沿線高校との打ち合わせの結果、新入生に時刻表を配布した。 利便性向上のため、イオン加美店乗り入れに向けて意見交換を実施したが、断念することとなった。	A 計画通り適切に実施された。	B 運行回数は計画通り、輸送人員、収入ともに前年度比で減少 ・輸送人員:前年度比95.2% ・運送収入:前年度比97.6%	・今後も高校の登下校に合わせた時刻調整及び、通学生に対してバス利用の周知を図る。
【二次評価】					

※生産性向上の取組については別紙(様式1-5-2)を参照願います。

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和2年1月31日

協議会名：	宮城県地域路線バス等対策連絡協議会
評価対象事業名：	地域公共交通確保維持事業
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>少子高齢化に加え、人口減少等によりバス利用者は減少しているが、自家用自動車等の移動手段を持たない住民にとって、バスは必要不可欠である。</p> <p>前述の理由によりバスの利用者が低迷しており、バス事業者の自主努力のみで路線を維持することが困難な状況であることから、公的支援が必要不可欠である。</p> <p>特に幹線系統に関しては、「まちづくり」という観点から事業者のみではなく沿線自治体と共に、地域交通全体の中でバス交通の役割・サービスレベルなどを検討・向上する必要がある。</p>

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年1月31日

協議会名: 宮城県地域路線バス等対策連絡協議会

評価対象事業名: 被災地域地域間幹線系統確保維持費事業

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
(株)ミヤコーバス	被災地 No.1 石巻免許センター線 (石巻駅前～日赤病院)	路線再編後の利用状況について、関係機関で情報共有を行った。	A	計画通り適切に実施された	A	計画通り目標を達成した	通常系統への移行後、生産性向上の取り組みを確実に実施する。
(株)ミヤコーバス	被災地 No.2 河南線 (石巻駅前～河南総合支所)	路線再編後の利用状況について、関係機関で情報共有を行った。	A	計画通り適切に実施された	A	計画通り目標を達成した	通常系統への移行後、生産性向上の取り組みを確実に実施する。
(株)ミヤコーバス	被災地 No.3 石巻専修大学線 (石巻駅前～飯野川)	路線再編後の利用状況について、関係機関で情報共有を行った。	A	計画通り適切に実施された	A	計画通り目標を達成した	通常系統への移行後、生産性向上の取り組みを確実に実施する。
(株)ミヤコーバス	被災地 No.4 河北線 (石巻あゆみ野駅～飯野川)	路線再編後の利用状況について、関係機関で情報共有を行った。	A	計画通り適切に実施された	A	計画通り目標を達成した	通常系統への移行後、生産性向上の取り組みを確実に実施する。
(株)ミヤコーバス	被災地 No.5 鮎川線 (石巻駅前～鮎川港)	路線再編後の利用状況について、関係機関で情報共有を行った。	A	計画通り適切に実施された	A	計画通り目標を達成した	通常系統への移行後、生産性向上の取り組みを確実に実施する。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
(株)ミヤコーバス	被災地 No.6 女川線 (石巻駅前～女川運動公園)	路線再編後の利用状況について、関係機関で情報共有を行ったほか、今後の路線のあり方について、関係機関で協議した。	A 計画通り適切に実施された	A 計画通り目標を達成した	通常系統への移行後、生産性向上の取り組みを確実に実施する。
(株)ミヤコーバス	被災地 No.7 三陸線 (津谷営業所～河原田)	利用の低迷を受け、路線の改廃も含めた今後の路線のあり方について、関係機関で協議した。	A 計画通り適切に実施された	A 計画通り目標を達成した	引き続き、今後の路線のあり方について、関係機関で協議する。
(株)ミヤコーバス	被災地 No.8 御崎線 (気仙沼市立病院～御崎)	引き続き、気仙沼市立病院移転後の利用状況について分析中。	A 計画通り適切に実施された	A 計画通り目標を達成した	被災地特例の終了を見据え、生産性向上の取り組みについて、関係機関と協議する。

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和2年1月31日

協議会名：	宮城県地域路線バス等対策連絡協議会
評価対象事業名：	被災地域地域間幹線系統確保維持事業
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>少子高齢化に加え、人口減少等によりバス利用者は減少しているが、自家用自動車等の移動手段を持たない住民にとって、バスは必要不可欠である。</p> <p>前述の理由によりバスの利用者が低迷しており、バス事業者の自主努力のみで路線を維持することが困難な状況であることから、公的支援が必要不可欠である。</p> <p>特に沿岸部においては、復興の進捗状況とあわせて、まちづくりと一体になった交通の維持確保が必要であり、経路や運行ダイヤの見直しを行い利便性の向上が必要である。</p>